自動たん吸引システムを開発した徳永社長＝大分県宇佐市大根川の徳永装器研究所

売れてます!

徳永装器研究所（大分県宇佐市）

患者や家族の負担軽く

独創的な発想で様々な福祉介護機器を世に送り出してきた会社が「自動たん吸引システム」を開発、特許を申請した。「患者のために」との思いが社長を突き動かす。

「患者からたんを取り除くのは大変だね」。徳永装器研究所（大分県宇佐市）の徳永修一社長(61)は11年前、大分協和病院（大分市）の山本真院長(57)とそんな話をした。体を動かせない患者にたんをはき出させるのは困難が伴う。介護する家族にも重い負担だった。

2人は共同で患者にチューブを差し込み自動的にたんを吸い出すシステムを開発することに。試作と改良を重ね、昨年8月に販売を始めた。構想から11年が経っていた。

1台約17万円。月に20台ほど売れている。患者や家族、病院に好評で、徐々に認知されてきた。徳永さんは「少しでも患者や家族の負担が減ったならうれしい」と話す。

友人の兄が1995年、筋肉が次第に動かなくなる難病「筋萎縮性側索硬化症」（ALS）にかかり、亡くなった。「患者や家族のためになる機器を開発しよう」。その思いで製品を作ってきた。

ほかにも、体が不自由な患者がボタン一つで携帯電話に登録した番号にかけたり電話に出られる機械や、ベッドから起き上がるとワイヤレスで周囲に知らせる徘徊防止用のマットなども手がけた。

現場の「こんな機械があったら」との声に耳を傾け、製品化してきた。「これからも患者や家族をサポートする物を作りたい」と意気込む。

（軽部理人）

設立	1997年
代表者	徳永修一
従業員	17人
売上高	1億5千万円

ボタンを押して操作する「ケータイコール2」